

# 第1期 年次報告

(2022年11月24日から2023年8月31日まで)

---

一般社団法人WITH PEER

---



WITH PEER

---

## VISION

スポーツを通じ、「障害」なき世界の実現に寄与する

## MISSION

スポーツをきっかけに「障害」に挑む人を育み  
共生コミュニティをつくる



**「友達」がいるコミュニティ**

## バトルのストーリー(下)

肢体不自由者のバトル。怪我が怖くて、スポーツをしていませんでした。普段は、自分にはできないと仕事や新しいことに挑戦することにネガティブでした。ボッチャに出会うことで、「私はスポーツをしているんだ！」と周りに話すなど自信が湧いています。障害のない人に声をかけて、一緒にボッチャを楽しむ居場所を意欲的に作ろうとしています。

## アーダマのストーリー(上)

視覚障害のアーダマ。元々、物乞いだけの生活をしていました。市場(いちば)で物乞いをして、家族のご飯を養う日々です。発達障害があり、学校に通うこともできていないため、友人関係も希薄でした。そんな彼が、ブラインドサッカーの練習に休みなく参加するようになり、障害のない友達や毎日通えるコミュニティができて、社会と物乞いだけではない繋がりができています。



**障害のある自分への「自信」**

第1期決算（2022年11月24日～2023年8月31日）		
（単位：円）		
<b>I 経常収支の部</b>		<b>2022年度決算</b>
1. 受取会費		168,000
2. 受取寄付金		329,280
3. 事業収益		120,557
4. 受取助成金等		1,399,094
5. その他収益		77,464
経常収益合計		2,094,395
<b>II 経常費用の部</b>		
1. 事業部門	海外	1,683,985
	国内	0
	現地通貨レート調整	-135
2. 管理部門		133,803
経常費用合計		1,817,653
当期経常増減額		276,742

貸借対照表				（単位：円）	
I 資 産 の 部	1. 流動資産		II 負 債 の 部	1. 流動負債	
	現金預金	276,742		買掛金	0
	売掛金	0		未払金	0
	未収金	0		前受金	0
	前払費用	0		預り金	0
	立替金	0		未払法人税等	0
	仮払金	0		未払消費税等	0
	流動資産合計	276,742		流動負債合計	0
	2. 固定資産			2. 固定負債	
	有形固定資産	0		役員借入金	0
投資その他の資産	0	固定負債合計	0		
固定資産合計	0	負債合計	0		
資産合計	276,742	III 正 味 財 産 の 部	1. 指定正味財産		
			前期繰越指定正味財産	0	
			当期指定正味財産増減額	0	
			2. 一般正味財産		
			前期繰越一般正味財産	0	
		当期一般正味財産増減額	276,742		
		正味財産合計	276,742		
		負債及び正味財産合計	276,742		

WITH PEER の具体的な活動は？



## スポーツを通じた障害者の社会参加促進プロジェクト

### プロジェクトの目標

#### ①「障害」に挑む人を育てる

- パラスポーツの普及強化を通じた育成
  - ・自尊心や自己効力感を育む
  - ・人と人との信頼の拡大
  - ・社会参加の促進 に寄与する
- パラスポーツ団体の運営能力強化
  - ・組織 / 人材 / 資金 / 環境
- 社会の障害者に対する偏見の除去
  - ・大会・体験会・交流会の開催

#### ②地域共生コミュニティづくり

- ユニバーサルスポーツを通じた多様性の経験と共有
  - ・機能障害 / 年齢 / 性別等を問わず、誰もが楽しみながら相互に尊重しあう
- 社会の障害者に対する偏見の除去
  - ・障害者自信の自己否定的な感情の低減
- 地域としての人と人との信頼の拡大

### 活動の2軸

①パラスポーツの普及と団体能力強化支援

②ユニバーサルスポーツの普及

## 障害者がいるコミュニティ

障害がない人々

社会の障害者に対するマ~~イ~~ナスイメージ・偏見・差別

- ・当事者を**身近**な存在と認識
- ・偏見や差別の**意識の変化**

障害者への偏見  
の低下

- ・当事者と交流する**機会の増加**
- ・「異質な存在」という**認識低下**

## 「障害」を理由に諦めないヒト

障害がある人

マイナスイメージ・偏~~見~~・差別を取り込む

- ・自己の存在を**肯定**する
- ・「障害」に対する**見方の変化**

自分自身への否定的な感情  
の低下

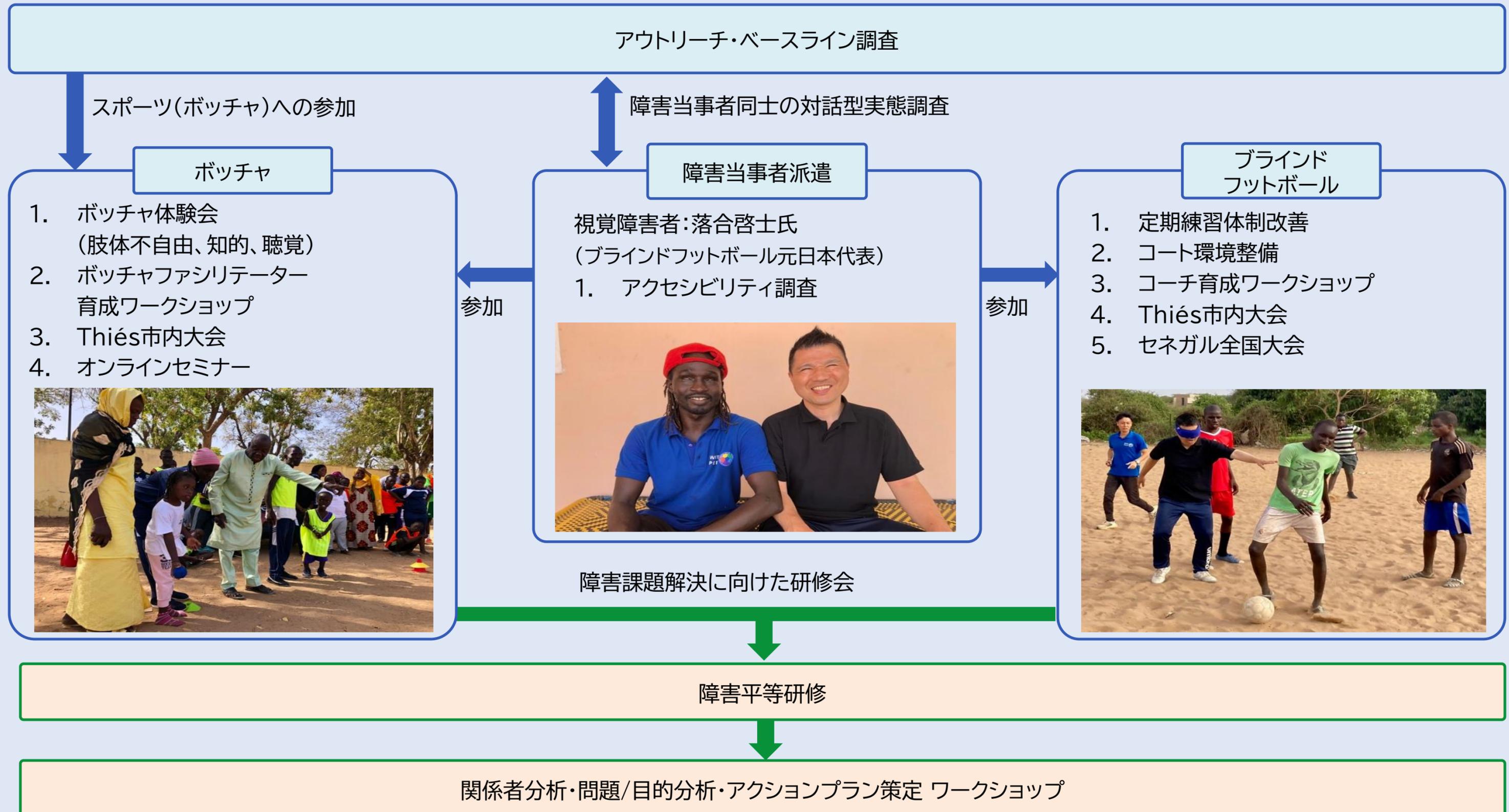
- ・自尊心 / 自己効力感の**上昇**
- ・社会的活動の**増加**

心理的距離の縮小

社会的距離の縮小



# 事業活動の紹介 (期間:2022年11月~2023年6月)



2022.11.24-2023.8.31までの取り組み

## ボッチャ



当事者ファシリテーター育成

## ブラインドサッカー



指導者・指導補助育成

## 「障害」啓発 ワークショップ



障害課題解決

# 事業活動の成果

1.障害者の社会参加とスポーツをめぐる参加型調査	
1-1アウトリーチ・ベースライン調査(6月末まで継続)	成果
スポーツにアクセスできていない(ないし、していない)人々の実態・課題・ニーズを把握するためのアウトリーチをティエス市内にて実施する。具体的には、セネガルの障害当事者と共に、家の外に出られていない障害者とその家族にリーチし、どのような機能障害のある人々が、どのように日中を過ごし、何をしているのか、を把握し、数値として現れていない障害者の置かれた状況を把握。	セネガルの障害当事者とともにより障害当事者同士の対話型の調査手法を通じ、社会参加が限られているティエス市内に住んでいる障害者及びその家族の状況や障害者とスポーツをめぐる調査報告書が作成される。国勢調査や障害者の実態を露わにした記録情報が乏しいため、今後も現地調査を続けて数値として現れていない障害者の置かれた実態を把握する。
1-2問題/目的分析・アクションプラン策定 ワークショップ(6月17日開催)	成果
アウトリーチを通じて新たに可視化された障害者とともに、スポーツ参加に係る問題分析・目的分析を行い、アクションプランを策定する。	パラスポーツ/ユニバーサルスポーツへのアクセシビリティ改善に向けて、現地の関係者が主体となってアクションプランが作成される。作成したアクションプランを当団体としても伴走しつつ支援する予定。



2.パラスポーツに関わる関係者分析	
2-1関係者分析ワークショップ(6月17日開催)	成果
誰もがスポーツに参加できるThiès市を実現するキーパーソン、団体(セネガルパラリンピック委員会、当事者団体、施設、スペシャルオリンピクスなど)の事業目的、組織体制、事業内容を関係者と共に分析を実施する。	関係者分析のもとでプロジェクトを遂行する上で適切なカウンターパートが設定され、その間でThiès市におけるスポーツを通じた障害者の社会参加拡大に向けて、協力関係が構築される。

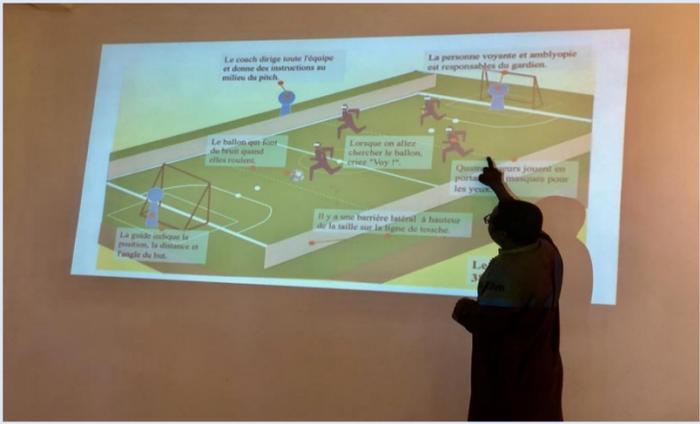
# 事業活動の成果

3.障害者の自己効力感や能力強化、ソーシャルキャピタルの拡大を目的とし、また競技としてのスポーツへの接続につながるよう、パラスポーツ(ブラインドフットボール、車いすスポーツ等)の普及活動

3-1Blindfootball定期練習体制の支援	成果
<p>国立盲学校を拠点に、ブラインドフットボール元代表選手および現地の先生やコーチが定期練習できるよう、練習メニューの提案、練習後のフィードバック、女性の参加拡大に向けた提案、現チームの活性化支援等を実施。</p>	<p>コーチによる定期的な練習(週6回)が実施され、男女ともに練習参加への定着、所属人数の増加も見られる。男女の参加比率格差は双方の増加により変化しておらず、より視覚障害のある女性の参加拡大に向けた取り組みに注力する。</p>



3-2Blindfootballコーチ育成ワークショップ	成果
<p>Thiès市内で新たにブラインドフットボールの指導及び指導補助ができる人材を育成するためのワークショップを実施する(目標値3名)。国立盲学校では、女子選手も参加していることから、コーチの育成も男性だけではなく女性指導者の育成も重点項目。ティエス州パラリンピック委員会と共催。セネガル視覚障害スポーツ協会と協働し、セネガル全国を対象としたコーチ研修も計画している。</p>	<p>2日間の研修で計6名(男性3名・女性3名)を育成。また研修後に練習会で実地のフォローアップを実施。3月にこのコーチたちと運営委員会を立ち上げ、市内大会を開催。育成したコーチの意欲が高く指導技術向上の意向もあるため、より視覚障害者がスポーツへのアクセスのしやすさを改善するため段階的なライセンス制度の構築を議論している。</p>



# トレーニング用ガイドブック (一部抜粋)

## - ブラインドサッカー -

organisation national des para-sports pour déficients visuels



### MANUEL D'ENTRAINEMENT CÉCIFOOT SÉNÉGAL



#### Appendice : La description du cécifoot



Le Cécifoot est une version du football adapté aux besoins des footballeurs non-voyants. Il est basé sur le Futsal avec des modifications de règles pour permettre aux joueurs de jouer. Il y a cinq joueurs dans une équipe de Cécifoot – quatre joueurs de champ non- voyants et un gardien voyant. Le Cécifoot est gouverné par la Fédération Internationale des Sports pour Aveugles (IBSA). Les premières compétitions internationales officielles se sont déroulées en 1997 et depuis cette époque, l'IBSA a développé un calendrier complet de compétitions internationales et des opportunités de développement.

Sept éditions du Championnat du Monde de Cécifoot IBSA ont eu lieu et il existe aussi les championnats régionaux classiques, des tournois et d'autres possibilités dans chaque pays du monde.

Le Cécifoot est une discipline paralympique depuis les Jeux Paralympiques d'Athènes en 2004 et sera l'une des vitrines sportives des prochains Jeux Paralympiques de Tokyo 2021 et de Paris 2024. Dans le mouvement paralympique, le Cécifoot est appelé football à 5.

cf. IBSA Manuel du Coach de Cécifoot Guide pour debutants

#### Menu des entraînements (un échauffement)



【FP: un joueur】 OF DF	【C: un coach】	【Déplacement du ballon】 ←
【GK: un gardien】	【un ballon】	【Déplacement de la personne】 ←
		【Déplacement du ballon et de la personne】 ←~~~~~
		←~~~~~

<b>【4 : Touche de ball】</b> 	<b>【objet】</b> ① Ils ont le sens du ballon. <b>【organisation】</b> ① Touchez alternativement le dessus du ballon avec le pied droit et le pied gauche. ② Déplacez le ballon d'un côté à l'autre et avec un seul pied. ③ Déplacez le ballon de l'avant à l'arrière et avec un seul pied. ④ Touchez le ballon entre les deux pieds. ⑤ Tirez le ballon vers l'arrière avec le pied droit et poussez le ballon vers l'avant.
---------------------------------	--

<b>【5 : balls et flexibilité】</b> 	<b>【objet】</b> ① Ils apprennent à bouger leur corps. ② Ils augmentent la souplesse du corps. <b>【organisation】</b> On tient le ballon dans sa main. ① Autour de son visage. ② Autour du corps. ③ Autour des jambes. ④ autour d'une jambe à la fois. ⑤ En position assise, autour des jambes.
---------------------------------------	---

<b>【6 : La callisthénie / La musculation】</b> 	<b>【objet】</b> Soyez conscients de la nécessité d'augmenter l'amplitude des mouvements des articulations. (ex. Tête, épaules, coudes, mains, omoplates, os du dos, fémur, genoux, pieds etc.) Renforce tous les muscles du corps. Permettre au joueur d'expérimenter une variété de mouvements.
---	--

# 事業活動の成果

3-3全国大会の開催支援	成果
<p>セネガル視覚障害スポーツ協会、Thiés州パラリンピック委員会、コーチをサポートし、2015年振りの全国大会が実施できるよう運営を担当する人々に対して、コンサルテーションやワークショップを通じて、開催にかかるノウハウを共有するとともに、運営に必要な能力強化を支援。 INEFJA派遣のJOCVとも協力し、当日全国大会を運営。</p>	<p>5月末に全国大会(男子4チーム、女子2チーム)を開催。Thiés、Ziguinchorが参加。度重なる日程変更により、Dakarが不参加。参加候補のSaint-Luis、Kaolackなど参加しやすさを改善すべく、年代別の大会開催を検討。開催後に振り返りを行い、次大会に向けた必要な各種ノウハウをマニュアルとして整備する。育成したコーチが積極的にチームへの関わりや運営に関わる意欲があるため、来年度に向けて運営委員会を立ち上げるなど継続性を作る。また地域への障害啓発や当事者自身の健康に対するワークショップも併催して大会の価値を高めていく予定。</p>



3-4コート環境整備	成果
<p>JICAセネガル、住友商事、現地の国立盲学校と連携し、産業廃棄物、ゴミ、ガラス片等が埋まっている校庭を整備するとともに、使用ルールなどを定める。</p>	<p>盲学校の生徒が安心、安全に運動に親しむ場の拡大に効果があるだけでなく、地域のサッカーチームも混じり、スポーツで障害の有無を交えたインクルーシブな交流の場を作り出すきっかけになっている。</p>



# 事業活動の成果

4.ユニバーサルスポーツを通じた機会の提供・居場所づくり	
4-1 ユニバーサルスポーツの場作り	成果
ユニバーサルスポーツでもあるボッチャを障害のあるなしに関わらず親しむことができる場を障害者センター内に作る。	障害者センター内でボッチャを楽しむ障害者と非障害者が定着しつつ、新規の参加者も増えている。また当団体が主導する必要なく、彼ら自身でボッチャを実施することができる。
4-2 ボッチャ体験会の開催	成果
障害者センター(肢体不自由)やSpecial Olympics Thiés(知的障害)、聾学校、聴覚障害者協会、聴覚障害職業訓練センターと協働して、ボッチャ体験会を開催。JOCVも障害者センターの体験会に参加し、落合氏と共に現地障害当事者と交流し、肯定的な感情を持つことにつながっている。障害種別ごちゃ混ぜのボッチャ交流会を計画中。(6月18日)	肢体不自由者、知的障害者、聴覚障害者など、ボッチャ体験会を様々な障害種別で開催。様々な障害種別の参加者約100名がボッチャを体験。運動やスポーツに触れる機会が乏しい障害児者にとって、ボッチャはルールが簡素で身体的負担が高すぎず、運動に親しむ機会を現地の人为主导で継続できる。



# 事業活動の成果

<h3>4-3 障害当事者のファシリテーター育成ワークショップ</h3>	<h3>成果</h3>
<p>体験会をファシリテート(競技紹介、デモンストレーション、試合運営、審判)でき、ユニバーサルスポーツの概念を理解、ルール説明や審判ができる障害当事者を育成するためのワークショップを開催。また、普及に必要なボッチャボールを自作できるよう適正技術を共有。(目標値:3名)</p>	<p>障害者が現地にある材料を調達し、ボッチャボールを自作できる人材を9名育成。また、ボッチャ体験会を開催しファシリテートできる障害当事者を9名育成。資格保有者はファシリテートだけでなく、インクルーシブなコミュニティを作る考えを身につけており、チーム分けや声掛けなど空間作りに生かされている。またボッチャボールもセネガルに合わせて製作可能なため、公式ボールがなくともアクティビティとして実施できる。</p>



<h3>4-4 大会の開催</h3>	<h3>成果</h3>
<p>Thiès市障害者センターで、ボッチャの大会を開催。障害当事者のファシリテーター育成ワークショップ受講者と運営委員会を立ち上げ、共に大会の準備、運営を実施。今後Thiès市内でチームが発足し、セネガルに広げたいと開催した障害者センターの参加者が口々にしている。大会に参加や目にする機会を増やし、障害種別関係なく、自然と交流できる場を創出する機会として大会を活用する考え。</p>	<p>22名[成人男性15名(障害者10:非障害者5)/成人女性3名(障害者3)/子ども4名(非障害者4)]/ボッチャ初参加7名(1名がアウトリーチ対象者)。行動範囲の拡大、身体活動を活性化しているとの発言が参加者からあった。障害種別を超え、インクルーシブなコミュニティを作る考えを身につけた彼らと、地域コミュニティに活動を広げていく。</p>



# 障害当事者のファシリテーター育成ワークショップ

## - マニュアル資料 (一部抜粋) -



### Guide pour la formation des animateurs de séances pratiques de boccia



### Guide et Règle de "Boccia"

#### A) Introduction

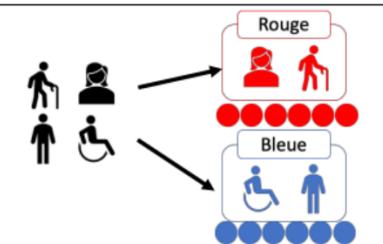
Boccia est un sport inventé en Europe pour les personnes atteintes d'une grave infirmité motrice cérébrale ou d'autres handicaps graves similaires des extrémités. Ces dernières années, Boccia est devenue un des sports qui peuvent être pratiqué par tous, jeunes ou vieux, avec ou sans handicap. Aujourd'hui on l'appelle comme « Sport Universel ».

Le but principal de ce jeu est d'amener six boules, une rouge et une bleue, le plus près possible d'une boule blanche appelée « Jack Ball ». Boccia n'a pas limite du temps c'est pourquoi que les personnes handicapées peuvent jouer à leur façon en se respectant dans une communauté conviviale.

#### B) Illustration de Démarche et Règle simple (non officiel)

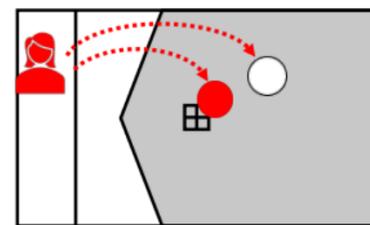
##### Preparation

On sépare les participants/Joueurs en deux équipes (Rouge et bleue). Les deux équipes, joueurs ou paires utilisent chacun 6 boules. La balle rouge (L'équipe rouge) est toujours la première dans la première manche du jeu.



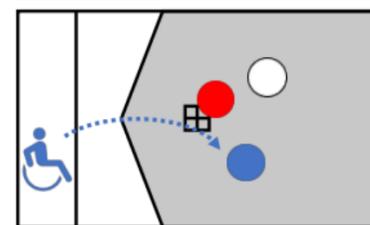
① Le premier attaquant (Rouge) lance un Jack-Ball (Balle blanche) dans la zone règle (couleur grise).

② Rouge continue à lancer une balle rouge pour l'approcher au Jack-Ball. **【Attention!】** Regardez une explication dernière.

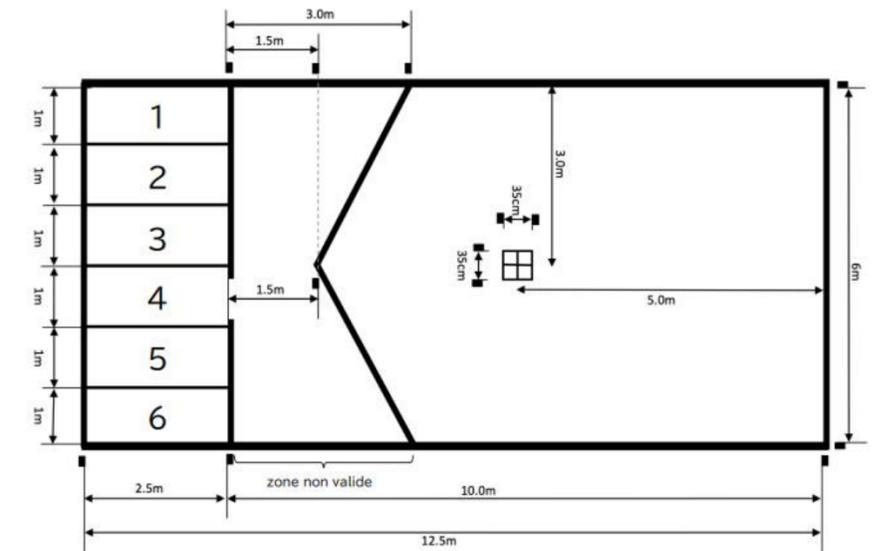


③ Le deuxième attaquant (Bleue) lance une balle bleue dans la zone règle (couleur grise).

A) Si la balle bleue est plus loin du Jack-Ball que la balle rouge, L'équipe bleue lance deuxième balle bleue.



#### ■ Un terrain de boccia



cf. BISFed-International-Boccia-Rules-2021.2024-v.2.0

#### ■ Comment créer le terrain de boccia

Vous pouvez utiliser le schéma comme guide pour créer un terrain de boccia. Si l'espace disponible est plus petit que le diagramme, il suffit de réduire la taille de l'emplacement en conséquence. Le terrain de boccia doit être construits sur une surface aussi plate que possible. Vous utilisez un ruban à mesurer et un ruban adhésif pour délimiter la cour du terrain. Le ruban adhésif peut être en papier ou en vinyle. Si ni l'un ni l'autre ne sont disponibles, on peut les remplacer par de la craie ou du charbon de bois.



Ruban adhésif en papier ou en plastique

# 事業活動の成果

5.日本とセネガルをオンラインでつなぎ、障害当事者同士による意見や技術の共有を行うとともに、日本のパラリンピアンを現地に派遣し、当事者同士によるエンパワメントを後押しする

5-1 障害当事者派遣  
 視覚障害当事者／落合氏を現地に招聘し、現地のブラインドフットボール選手や国立盲学校の生徒とブラインドフットボールで交流、肢体不自由者、知的障害者とボッチャで交流。また、Thiés州パラリンピック委員会、視覚障害者協会、視覚障害当事者と当事者同士で対話する機会を作り、日本とセネガルにおける視覚障害事情や問題に関する意見交換を行った。国立盲学校やインクルーシブ教育学校の現場視察も実施。

成果  
 障害当事者同士の対話を通じて、視覚障害者の社会参加に向けた課題、及びブラインドフットボールの普及に関する課題を現地の当事者と共に発見する機会となった。またインクルーシブ教育校での授業実践や教具については、セネガルから学ぶことが多く、視覚障害の当事者である落合氏を通じて、その事例を日本に還元する予定。



5-2 オンラインセミナー  
 日本のパラスポーツ関連団体と連携し、ボッチャやパラスポーツに関するセミナーや意見交換を実施し、スポーツにアクセスできる人を増やすための工夫や取り組みについて共有。  
 ・協力: 鮎川福祉デザイン事務所／ユニバーサルスポーツフェスタ開催事例紹介

成果  
 ・参加者: 7名(ティエス州パラリンピック委員会1名、ブラインドフットボールコーチ1名、障害者センター2名、Special Olympics Thiés3名)  
 登壇者から国際協力への関心が高まった声があり、参加者からは日本の事例をもとにセネガルで応用して新しい取り組みとして参考にできるとあり、活動を検討できる機会となった。



# 事業活動の成果

6.オンラインを通じ、「スポーツと開発」のイベントを開催し、国際理解、障害理解を実施	
6-1 オンラインイベント(帰国報告編6/24開催)	成果
<p>市民向けのオンラインイベントとして、現地活動の様子で発信し、「スポーツと開発」を大きなテーマとして、国際理解、障害理解につながる啓発活動を実施する。落合氏の渡航に合わせて、第3回(出発直前編4/22、現地活動編5/27、帰国報告編6/24)を開催。</p> <p>共催:一般社団法人Bokk Jambaar</p>	<p>・参加者:出発直前編13名、現地活動編25名。 国際協力に普段関わることのない参加者が多い中で、Thiès市を視覚障害当事者の落合氏が歩いている姿を見ることにより、街の様子からアフリカに対する理解が深められた。また日本のパラスポーツ愛好者、関係者が国際協力に対する興味・関心を持つきっかけとなっている。</p>

ZOOMオンライン開催  
**ブラインドフットボール**  
**元日本代表がゆく**  
**アフリカ/セネガル**  
 出発直前編

参加費無料 2023.4.22[土] 19:00-20:30

視覚障害者が伝えるブラインドフットボールの魅力と  
 視覚障害者にも伝えたいセネガルの魅力

落合 啓士 氏

ZOOMオンライン開催  
**ブラインドフットボール**  
**元日本代表がゆく**  
**アフリカ/セネガル**  
 現地活動編

参加費無料 2023.5.27[土] 19:00-20:30

視覚障害者が伝えるブラインドフットボールの魅力と  
 視覚障害者に伝えたいセネガルの魅力

落合 啓士 氏

ZOOMオンライン開催  
**ブラインドフットボール**  
**元日本代表がゆく**  
**アフリカ/セネガル**  
 帰国報告編

参加費無料 2023.6.24[土] 19:00-20:30

視覚障害者が感じた  
 セネガルのブラインドフットボールの可能性

落合 啓士 氏



# 事業活動の成果

7.障害啓発を目的とした研修開催	
7-1障害平等研修(6月10日開催)	成果
活動3-2、4-3で育成された人材及び、ティエス市内でパラスポーツに関わる関係者を対象に「障害」啓発のワークショップを実施し、障害分野に関わる人々のエンパワメントを図る。	障害の社会モデルという視点を獲得し、その視点から行動する人材が育成される。育成する彼らと共に、アクションプランを策定し今後のプロジェクトの社会的インパクトを高めていく。 ・参加者予定8名:ティエス州パラリンピック委員会1名、ブラインドフットボールコーチ2名、ブラインドフットボール選手1名、障害者センター2名、Special Olympics Thiés2名

8.ティエス市のアクセシビリティ調査を視覚障害当事者で行う	
8-1アクセシビリティ調査	成果
視覚障害者が市内を生活する上で、主にThiès市内にどのようなバリアが存在するのかを視覚障害当事者/落合氏とともに調査。 ①ホテル、生活圏 ②Thiès市街地 ③ガラージュ周辺	視覚障害者の落合氏に街を歩いてもらいながら当事者目線でセネガルの視覚障害者が抱えている公共サービスや街のスポットへのアクセシビリティの課題を明らかにした。今後、弊社だけでなくJICAのボランティア事業等で視覚障害者が派遣された場合の基礎情報としても活用できるようにアクセシビリティ調査報告書を作成した。同時に視覚障害者がアフリカで活動する場合の同行援護業務に関する知見についても収集し、同報告書に記載した。



# 事業活動の報告

国内活動	
講演・発表	内容
2月24日(金)	JICA「スポーツと開発」 KML勉強会における活動事例共有
オンラインイベント	内容
4月22日(土) 19:00-20:30 5月27日(土) 19:00-20:30 6月24日(土) 19:00-20:30	一般社団法人ボック・ジャンバルとの共催イベント ブランドフットボールサッカー元日本代表の落合啓士氏との連続セミナー(3回)開催
海外活動	
JICA基金事業	内容
2022年11月～2023年6月	「セネガルにおけるスポーツを通じた障害者の社会参加促進」 <a href="https://www.jica.go.jp/Resource/tokyo/topics/2022/i8dm0l0000001lpe.html">https://www.jica.go.jp/Resource/tokyo/topics/2022/i8dm0l0000001lpe.html</a>

広報媒体	資金調達状況
HP: 昨年よりリニューアル Facebook: Instagramと連動して運用 Instagram: Facebookと連動して運用 X(旧:ツイッター): 限定運用 LINE 公式アカウント: 会員及びピアパートナーへの情報提供。月2～3回投稿 WEBマガジン: 第3号まで発行	クラウドファンディングサイトによる継続寄付のお願い 助成金申請

## コミュニティづくり

### 女子の スポーツ参加者



障害者のスポーツに参加する女子の人数を2倍にする

### ユニバーサル スポーツ参加者数



ユニバーサルスポーツに参加する人数を2倍の平均30名にする

### パラスポーツ 地域拡大



パラスポーツの拠点を3地域にする  
(現在1地域)

## コミュニティづくり

### ユニバーサル スポーツ体験会



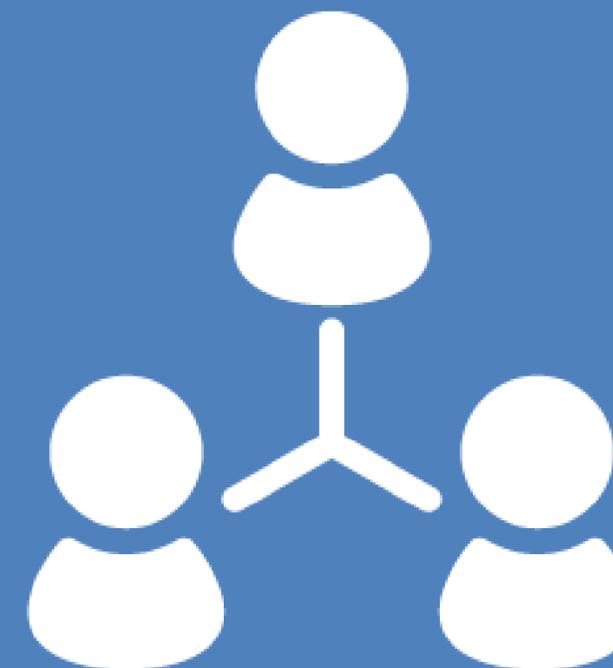
現地ファシリテータが主導したユニバーサルスポーツ体験会を、年に3回実施する

### ユニバーサル スポーツフェスタ



50名が参加するユニバーサルスポーツフェスタを年に1回定期的に開催する

### 連携



地域のスポーツ・教育・社会福祉関係者との連携が確立している

# 団体紹介

名称:一般社団法人WITH PEER

設立:2020年4月6日

法人登記:2022年11月24日

決算期:8月31日

役員:理事 神保康広(車いすバスケパラリンピアン)

理事 尾崎愛奈(大学生)

監事 羽立大介(元JICA海外協力隊ガーナ隊員)

対象国:セネガル共和国・日本



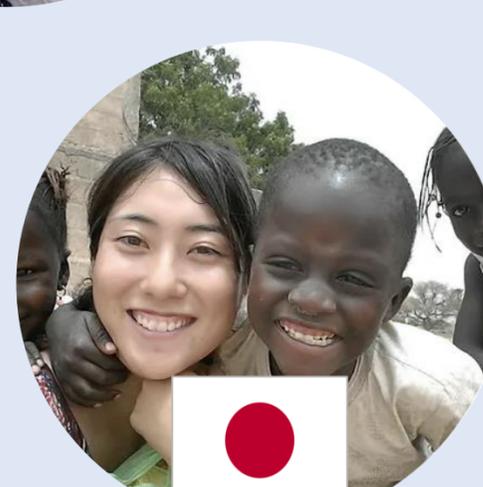
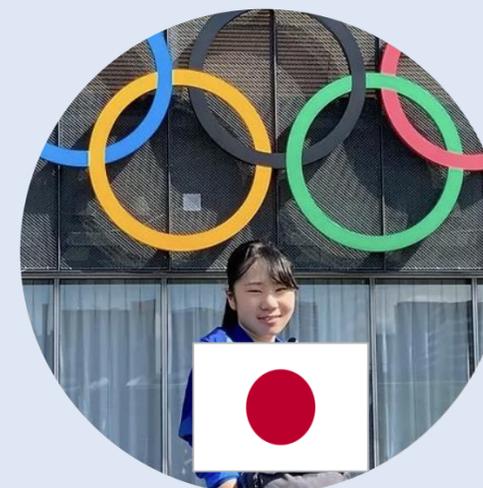
代表理事 松尾 雄大

## 2022年度 会員数

正会員	7名
賛助会員	3名
マンスリーサポーター	28名
ボランティア・インターン	0名

(内 大学生2名)

## メンバー



# WITH PEER



スポーツで、  
誰もが**生きがい**をもてる**社会**をともにつくる！  
多様性のある**コミュニティ**を一緒につくる！

VISION

スポーツを通じ「障害」なき世界の実現に寄与する

MISSION

スポーツをきっかけに「障害」に挑む人を育み、共生コミュニティをつくる

## 私たちの原体験：セネガルでのパラスポーツ

セネガルの子どもたち…「視覚障害者は路上でお金を集めるか、家にいるしかない」



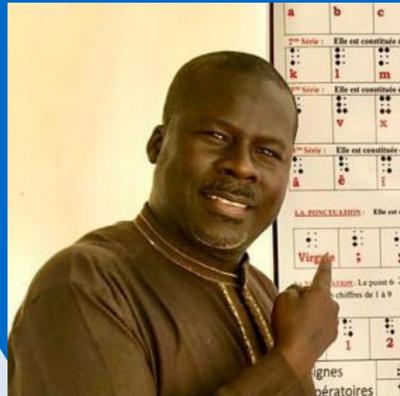
ブラインドサッカー女子日本代表の訪問がセネガルの子ども達の偏見を覆した！

私たちが「障害」という課題に向き合うきっかけに。

**スポーツが**障害の有無によらず**人と人との信頼を繋ぐ**という**確信**を持っています。

# セネガル現地パートナー

現地で活動を共にしている心強いパートナーたち



アリ ジャ  
-Aly DIA-

ブラインドサッカーセネガル代表監督  
視覚障害児向けインクルーシブ教育プログラム  
コーディネーター  
セネガル視覚障害者スポーツ協会事務局長  
ティエス市障害者スポーツ協会会長



ママドゥ ラミン ジャハテ  
-Mamadou Lamine DIAKHATE-

ティエス市障害者スポーツテクニカルディレクター  
職業訓練校体育教師



ハディム ファル  
-Khadim FALL-

ブラインドサッカーセネガル代表選手  
代表キャプテン  
視覚障害者(全盲)  
マッサージ師



アブドゥライ ンバイ  
-Abdoulaye  
MBAYE-

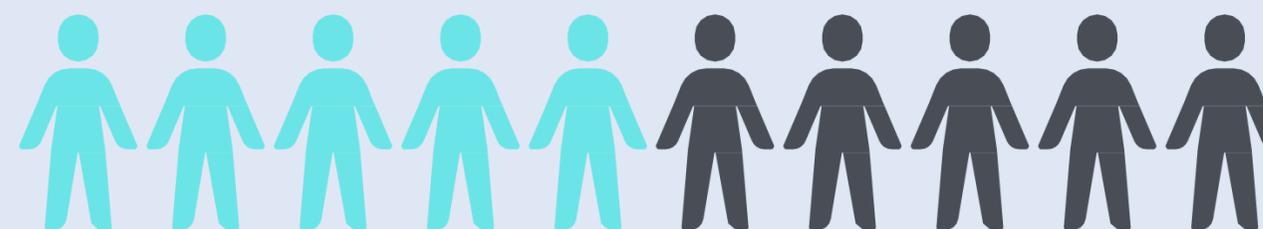
車いすバスケットボールセネガル代表選手  
肢体不自由者  
centre handicapé 勤務

# セネガルの障害者事情

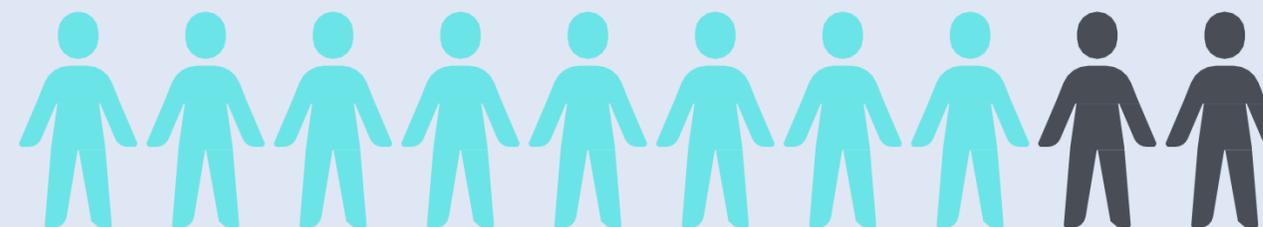
## a) セネガルの障害者人口



① 2人に1人が、視覚障害or肢体不自由



② 5人に4人が、未就労



\* 参考：セネガル国勢調査(2013)

# 「障害」なき世界の実現にむけて

PEER(仲間)と共に

スポーツを通じて

社会にある「障害」を壊していく

誰もが生きがいを持てる社会を目指して

スポーツには その力がある

